

NOTE BOOK

盛岡広域エリア 探究学習ノート



わんてきょうだい
©2017 岩手県観光協会

発行：盛岡広域振興局

年 組 番 名前

はじめに

修学旅行で、「輝き」を見つけよう！

皆さんは、岩手にどんなイメージを持っていますか？
岩手山の美しい自然、歴史的な城下町、郷土料理の美味しさ……。きっと学校でいろいろ学習したことでしょう。

しかし、実際に訪れてみると、記事や動画などでは伝わりきれない「魅力」があることに気づきます。さまざまな情緒あふれるスポットには、温かい地元の人々とのふれあいが待っています。地元で暮らす人々の地域に対する想いを体感し、地元の暮らしや伝統工芸の技、自然の恵み、そして歴史上の偉人たちの足跡など、多様な視点で盛岡市とその周辺エリアを楽しんでください。そうして見つけた「岩手らしさ」を、ぜひあなたが住んでいる地域の発展や未来を考えるヒントとして、新たな一步を踏み出すきっかけにしてください。さあ、岩手の「輝き」を探しにでかけましょう！



岩手山

このノートでの学び方

この「盛岡広域エリア探究学習ノート」では、岩手県の盛岡市およびその周辺エリアを対象にして探究を進めていきます。

盛岡市

世界から注目を集める盛岡市では、まちを実際に歩きながら、さまざまな歴史や文化に触れることで、自分なりにまちの「輝き(魅力)」を見つけていく活動を行います。【探究レンズ】という見方を示し、まち歩きでの魅力発見を手伝います。*「盛岡まち歩き探究編」をご覧ください。

広域エリア

豊かな自然環境を中心に、その開発、防災などを含めた SDGs に関わる多様な活動に触れます。その自然環境に関わるスタンスを、【SDGsトピック】として整理し、その考えを自分ごととして落とし込めるような構成にしています。

わんこきょうだい *わんこきょうだいは、(公財)岩手県観光協会の登録商標です。



メインキャラクター
そばっち
(岩手県全域)



こくっち
(東北エリア)



おもっち
(平泉・県南エリア)



うっち
(三陸エリア)



とふっち
(盛岡・中央エリア)

この本のもくじ

広域エリア SDGs 探究編

- はじめに 02・03
- 学びの準備 04・05
- 発表用シート 16
- 探究トピック 06～11
- 旅まえワーク 12
- 現地メモ 13
- 旅あとワーク 14・15

はじめに

岩手で、生活に息づくSDGsを探究しよう

岩手では、世界遺産「御所野遺跡」^{ごしょの いせき}に代表される縄文時代から、自然と共生してきた人間の営みの歴史があります。その中で同じ形を保ち時代を繋いできた伝統や慣習^{つな}、経済性や合理性と融合しながら自然と向き合う新たな手法など、身近にあるSDGsの入り口を探していきましょう。

盛岡市の街並み

盛岡市内には盛岡三清水や盛岡十大清水と呼ばれる清水のほか多くの清水があり、自然の水資源の活用のほか多様な役割を果たしています。街並みは近代的な建物の中に明治、大正、昭和初期に建てられた歴史ある建物が点在し、持続可能な街づくりの想いが感じられます。



盛岡市鉦屋町（なたやちょう）の街並み

自然への畏敬と畏怖

山に降った雨や雪は、山林の養分を含んで川となって里の田畑を潤し、海を豊かにしています。農林水産業が盛んでもあり、自然と共生しながら自らの生産の営みを行っています。2011年には、東日本大震災により甚大な被害を受け、復興に向けて新たな街づくり、産業の再生に力を入れています。これまでの経験をもとに、津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会の実現を目指して、各地域でさまざまな経験に基づいた防災教育に取り組んでいます。



宮古市近郊の冬景色

SDGsへの取り組み

「SDGs」は「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。「誰一人取り残さない」という高い理念のもと、17の分野にわたる目標について、2030年までの達成を目指して、全ての国連加盟国が取り組んでいます。

SDGsの17の目標は、それぞれが関連し合っているため、一つの問題の解決が別の問題の解決の弊害になる場合もあります。そのため、必ずしも問題の解決を目指すのではなく、バランスを取りながら、最適な解決策を見つけていく姿勢が大切とされています。



学びの準備

岩手に行こう

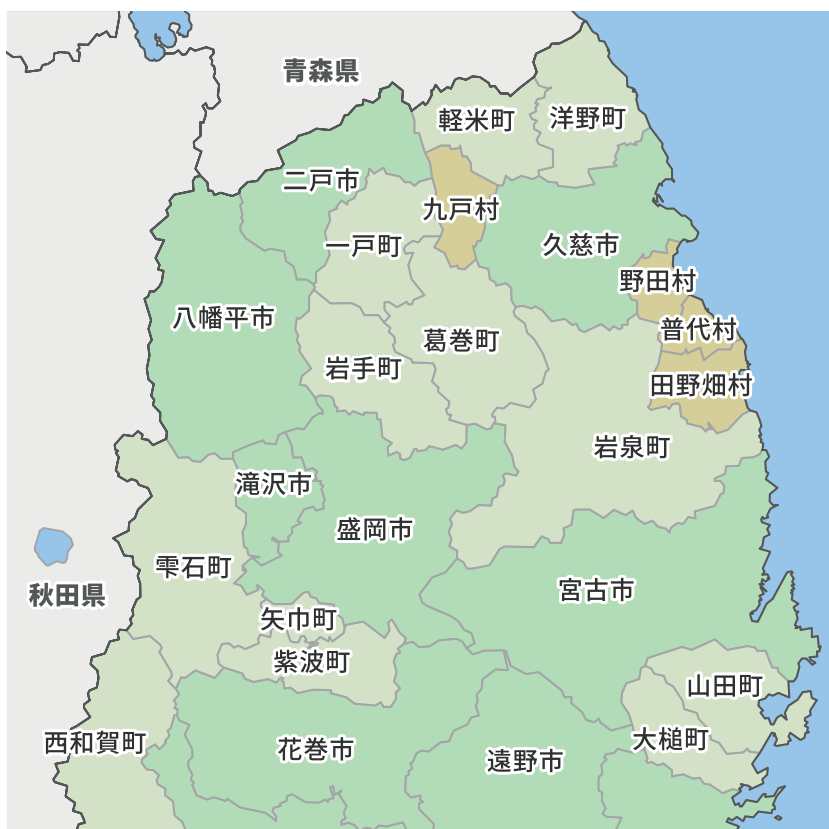
IWATE

❖ 岩手県概要

- ・面積：15,280 km²
- ・人口：1,181,445 人
- ・総世帯数：533,328 世帯
- ・市町村数：33 市町村
(2023 年 4 月現在)



そばっち



岩手県の特徴

本州北東部に位置し、北海道に次ぐ、広大な面積の岩手県。岩手には、とわだはちまんたい十和田八幡平国立公園、三陸復興国立公園に代表される豊かな森林、広々とした高原、美しい海岸線など恵まれた自然があります。石川啄木（歌人）、宮沢賢治（童話作家）をはじめとする偉人や大谷翔平（野球選手）の出身地であり、「平泉」「橋野鉄鉾山」「御所野遺跡」の3つの世界文化遺産があります。

沿岸地域では2011年、東日本大震災により被災し、国内だけではなく世界各国から支援を受けながら、復興に向けて歩んできました。現在では、その教訓を伝えながら、誰も取り残さないための防災、減災への取り組みが行われています。

準備運動！

ちょこっとワーク①

岩手に関するキーワードや知っている言葉を書いてみましょう。

学びの準備

地域を知ろう

この「盛岡広域エリア探究学習ノート」は、以下のエリアの探究学習を扱っています。

- ❖ **盛岡まち歩き探究編** (盛岡市中心)
- ❖ **広域エリア SDGs 探究編** (県央、沿岸、県北地域)

【盛岡市】 岩手県を中心に位置し、歴史的な城下町の風情と現代の建物が調和する魅力ある街並みです。盛岡三大麺とよばれる盛岡冷麺、わんこそば、じゃじゃ麺などの食文化も魅力です。ニューヨーク・タイムズ紙に「2023年に行くべき52カ所」として取り上げられたことから、国際的に注目を集めています。



とふっち

【八幡平市周辺】 十和田八幡平国立公園は、秋田県と岩手県にまたがる名所です。豊かな自然に囲まれた山岳地帯で、冬にはスキーやスノーボード、夏にはカヌーやマウンテンバイクが楽しめます。6月上旬に頂上付近で見ることができる「八幡平ドラゴンアイ」は、幻の絶景として多くの人々を魅了しています。



八幡平ドラゴンアイ

【雫石町周辺】 盛岡市から車で約40分の場所にあり、美しい自然環境が広がります。静かな町並みやのどかな風景が魅力で、観光農園や温泉地も楽しめます。また、岩手山の麓に位置し民泊も充実。農業体験のほか、地域の伝統文化や地元の特産品、工芸品の体験もできます。

【県北】 山と田園風景に包まれたエリア。縄文時代の遺跡が点在し、世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」の一戸町の御所野遺跡が有名です。漆の出荷量は全国の約8割を占めており、良質な漆の一大産地となっています。



二戸市・馬仙峡



こくっち

【沿岸】 三陸復興国立公園は、豪壮な大断崖と優美なリアス海岸が特徴。新鮮な海産物が味わえるほか、海水浴やマリンスポーツが楽しめます。龍泉洞などのダイナミックな自然の造形も魅力。各地域では、防災学習に力を入れており、伝承活動も行っています。



うにっち



田野畑村・北山崎

準備運動!

ちょこっとワーク②

なんとなく気になること、知りたいこと、興味をもったことをメモしておきましょう。

広域エリアSDGs探究編



広域エリアでSDGsを体感して、探究につなげよう

この「広域エリア SDGs 探究編」では、盛岡以外の4エリアで体感できるSDGsの考え方や向き合い方を扱っています。

豊かな自然を背景に、人々がどのような考えで日々の生活や仕事に向き合っているのか、実際に体験しながら考えてみましょう。

ここでは、自然環境への考え方や向き合い方、関わり方を【SDGs トピック】としてまとめました。「**自然環境との持続的な共生**」を、全体に共通しているメインピックとして挙げ、それを考える4つの切り口をサブトピックとして取り上げました。サブトピックは、4つのエリアそれぞれに対応しています。

各ページでは、探究学習に適したスポットと、そこで体験できる探究プログラムを紹介し、着目するきっかけとなる「探究のヒント」を記載しています。ぜひ、自分が気になったものを取り上げて、旅行中に考えを深めてみてください。考え、体験することで、きっとSDGsの取り組みを自分ごととして捉えることができるようになるでしょう。

SDGsトピック

トピック①

自然の恵みを
生かす・進化
させる

トピック②

自然を土台に
持続可能な
産業を築く

メインピック

自然環境との
持続的な共生

トピック③

地域に適応した
持続可能な
生き方や暮らし

トピック④

生きる。守る。
防災と復興
まちづくり

SDGsを達成するために、できること

次のページから、エリアごとに設定した「SDGs トピック」を中心に、それを体現している施設・取り組みを紹介しています。それぞれの地形や気候などが、どのような形で産業と結びついているのか、そしてこれからの時代にどのように対応していこうとしているのかを学んでいきましょう。

現地で体験してみよう！

各施設には、体験プログラムでの学習が用意されており、それぞれ施設の特徴に合わせた「事前学習」と「現地での体験」、「事後学習」がセットになっています。ぜひ、そこでしか得られない学びを体感してみましょう！

お使いになる先生へ

別資料「SDGs 教育旅行プログラム」に、各施設・体験プログラムの詳細が掲載されています。合わせてご活用ください。





自然環境との
持続的な共生

SDGsトピック①

自然の恵みを生かす・進化させる

自然の恵みを生かす、進化させるために、人々はどのように取り組んでいるのでしょうか。ぜひ、自分で体験しながら、これからどんなことができるかを考えてみましょう。

八幡平地熱蒸気染色



国内の地熱発電発祥の地、八幡平市松川温泉。温泉井戸から噴出する地熱蒸気を利用した染色法「GEOCOLOR(ジオカラー)」を編み出した。世界でここだけの染物を見ることができる。



探究のヒント

【01】再生可能エネルギーって？

化石燃料に頼らずにエネルギーをどう調達するか、世界の課題となっている。適切な選び方、メリットやデメリットを考えよう。

【02】エネルギーの活用を考えよう

自然エネルギーの活用方法は無限大。どんな使い方が考えられるか。また、そこには持続可能という視点も忘れてはならない。

八幡平スマートファーム



松川地熱発電所から供給される熱水とIoT次世代制御システムで、新時代の農業を体現する施設。耕作放棄された熱水ハウスを再生し、雇用も生み出す好循環を作っている。新鮮な温泉バジルがイチおし。



探究のヒント

【03】日本の食の問題は？

食料自給率が下がり続けている日本。一方で、食品ロスの問題も抱えている。どんな工夫で解決につながられるだろうか。

【04】農業の現状と課題

日本の就農者数や耕作面積は減り続けている。デジタル技術が進化し、これらの課題をどう解決するか。考えるきっかけを探そう。

考えてみよう

① 八幡平エリアの気になった《探究のヒント》と、その理由を書きましょう。

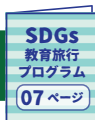
自然環境との
持続的な共生

SDGsトピック②

自然を土台に持続可能な産業を築く

自然を土台にするということは、動物や植物、さらには気候など、自然界の循環に逆らわずに産業に取り入れていくこと。ぜひ、どのように自然と産業が両立しているのか、現地で確かめてみましょう。

小岩井農場



小岩井農場は、岩手郡雫石町と滝沢市にまたがって所在する日本最大の民間総合農場である。1891年創業時から、自然を利用しながら乳牛を育て、新鮮な乳製品を提供している。約3,000haの敷地を有し、そのうち約40haを観光エリアとして公開している。



探 究 の ヒ ン ト

【01】農場のエネルギーの源は？

農場のエネルギーは、何からどのように作られているのだろうか。必要なエネルギーは自分たちで作り出すのが循環ということ。それを踏まえながら体験しよう。

【02】未来を見すえた環境づくりって？

100年前に作られた牛舎は、今も現役。なぜ、現代も使い続けることができるのか。当時の人は、どんなことを考えていたのか。国指定重要文化財「上丸牛舎」を見に行こう。

【03】牛乳の安全とおいしさはどこから？

乳牛の飼料には、どのような秘密があるだろうか。安全とおいしさを持続するために、どのような仕組みになっているかを知ろう。

【04】従業員と牛の幸せを考える

100年以上にわたり、地域に雇用を生み出してきた小岩井農場。働く人を第一に考えた環境が、同時に牛にとっても居心地がよい環境になる。どんな工夫があるのか見てみよう。



考えてみよう

① 小岩井農場の気になった《探究のヒント》とその理由を書きましょう。

② 「循環型社会」とはどんな社会のことを指すのでしょうか。考えてみましょう。

昔の人々は、衣食住に地域それぞれの特性を取り入れて生活を営んできました。現在にもつながっている持続可能な生き方や暮らしを考えるためのヒントを、ぜひ現地で体感してみましょう。

御所野遺跡



御所野遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群（17の考古遺跡）」は、1万年以上もの長期間、狩猟・漁労・採集を基盤とした世界的にもまれな定住生活と、先祖や自然を敬うところ、豊穡への祈りなど、人々の精神文化を伝える世界遺産である。



探究のヒント

【01】自然に寄り添った暮らしとは

なぜ1万年以上もの間、同じ生活を続けることができたのか。地形や気候を生かした暮らしから、自ら実践できることを考えよう。

【02】縄文時代の「持続可能」って？

今よりも食糧の調達が難しかったであろう縄文時代。争いがなく、公平で、持続可能な社会のために、現代でもできることを考えよう。

浄法寺漆器



岩手県は日本一の漆産地。特に県北部の安比川流域では、江戸時代から昭和中期頃まで、川沿いの集落ごとに作業を分担した地域一体的な漆器生産を行っていた。それらは、現在でも浄法寺塗、安比塗として愛されている。



探究のヒント

【03】今の時代の伝統文化とは？

日本の伝統文化を後世に残していくために、何が課題となっているだろうか。自分の地域の産業も照らして考えよう。

【04】文化財の保持、保全に目を向ける

日本に多く存在する漆塗りの文化財の保持や保全も、漆塗りの技術の継承とともに考えていく課題であることを知ろう。

考えてみよう

① 県北エリアの気になった《探究のヒント》と、その理由を書きましょう。



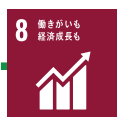
自然環境との
持続的な共生

SDGsトピック④

生きる。守る。防災と復興まちづくり

自然災害とは、常に隣り合わせだということを忘れてはいけません。地域の方は、自分たちのまちを守り、生きていくために、どんな知恵と考え方を持っているでしょうか。現地でぜひ、見つめてみてください。

震災学習列車



東日本大震災で大きな被害を受けた沿岸地域。三陸鉄道は、被災地のシンボルとして2014年4月に全線運行が再開した。列車が運行することという日常が戻ってきた実感が、住民を勇気づけた。



探究のヒント

【01】地域の復興と鉄道の役割は？

復興を遂げた三陸鉄道は、地域の一部として機能している。人々がどんな考えを持って復興の道りを歩んだか、想像してみよう。

【02】ローカル鉄道の役割って？

日本全国で課題になっているローカル鉄道の課題をどうとらえていくか。自分たちの地域でも考えてみよう。

新生やまだ商店街協同組合



地域の生活を守るため、新たな商店街は誕生した。コミュニティが存続するために必要な「地域のために何ができるか」を考え、進められたまちづくりを自分の目で見てみよう。



探究のヒント

【03】まち全体での持続可能とは

まちづくりの基本・根本にあるものは何か。「その地で生きていく」という地域活性化の本質に触れよう。

机浜番屋群



半農半漁の生活を営む地域の、漁の拠点であった番屋。東日本大震災の津波により流失したが、以前の面影を復元する形で再建され、現在は漁業と観光が融合した施設となっている。



探究のヒント

【04】これからの文化継承の方法とは

元の姿に戻すだけでなく「観光」という新たな価値を見出した。その時代に合った形で文化を継承することを考えてみよう。



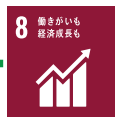
うにっち

自然環境との
持続的な共生

SDGsトピック④

生きる。守る。防災と復興まちづくり

津波遺構たろう観光ホテル



震災の被害を受けた宮古市田老地区の現状や当時の状況を、防潮堤からの景色や災禍の遺構を実際に見ることで、災害や地域への向き合い方を知ろう。



探究のヒント

【05】 たろうが考える防災

2つの防潮堤建造と、住宅地のかさ上げを施している田老地区。命を守るための考え方を知って、人々の思いを感じよう。

【06】 自助、共助、公助の在り方とは

自然と共存するために、周りの人とどのように手を取り合っていけばよいか。地域や人との関連性から考えよう。

普代水門



東日本大震災では、高さ 20 メートルを超える津波が普代村に押し寄せた。しかし、住民を説得して建設された普代水門が津波を防ぎ、集落と住民を守った。未知の災害に対してどのように備えていくのか、正面から向き合った証を見てみよう。



探究のヒント

【07】 地域を動かす人々の思い

地域住民の意見を取り入れ、防潮堤の高さを決定するまちの在り方や、生活をしていくことを考えた総合的な選択とは何か。

【08】 未来に伝えていくには？

津波から村を守った普代水門は、「奇跡の水門」として防災を考えていくうえで未来に伝えていく必要がある。そのために、どんな工夫や活動がされているだろうか。

💡 考えてみよう

① 沿岸エリアの気になった《探究のヒント》と、その理由を書きましょう。

② 防災と復興まちづくりでいちばん大事なことは何でしょうか。現時点の考えを書きましょう。

訪問する施設・スポットや現地で体験することについて、旅行の前に調査をします。そして、この段階での自分の考えをまとめておきましょう。

【旅まえワーク①】 訪問する施設やスポットの《探究ヒント》を参考に、具体的に旅行中に知りたい「旅の探究テーマ」を決めましょう。

▼旅の探究テーマ

【旅まえワーク②】 ①の「旅の探究テーマ」に決めた理由を書きましょう。

【旅まえワーク③】 訪問スポットについて、ウェブサイトやパンフレットなどを見て、調べたことや訪問した際に聞いてみたいことを書きましょう。

【旅まえワーク④】 調べたことをもとに、現時点での自分の気づきや印象をYチャートに整理しましょう。

魅力的（好印象）に思ったこと

疑問に思ったこと

自分の考えと違うと思ったこと



広域エリアSDGs探究編

こくっち

おもっち

訪問スポットで体験したことをメモしよう！

●体験したことや見聞きしたことをメモしておきましょう。

●体験中に得た気づきや感想を書き留めましょう。また、旅行前の印象や考えていたことと異なる部分があれば、それもメモに残しておきましょう。

●話をうかがった地元の方は、地元や取り組みに対してどんな思いを持っていたでしょうか。話を聞いたりした中で、伝わってきたことを書きましょう。



広域エリアSDGs 探究編

旅あとワーク① 学びを深めよう

●現地での体験や学びを振り返り、SDGs に対する自分の考えをさらに深めていきます。現地で気づいたことや考えたことを、自分の「旅の探究テーマ」に沿ってまとめましょう。

【旅の探究テーマ】

【1】 旅行中の体験を振り返り、2つの観点で自分の感想を書きましょう。

▼旅行中に関心を持ったこと、これから考えていきたいと思ったこと

▼旅行後に改めて思ったこと、印象が変化したこと

【2】 今回の旅は、自分にとってどんな旅だったか、またどんな学びがあったかをまとめましょう。タイトルに、最初に設定した「旅の探究テーマ」か、新たに感じたことをつけてみましょう。

【タイトル】

▼旅のまとめ



広域エリアSDGs探究編

旅あとワーク② 自分にできることを考えよう

訪問先で感じたSDGsへの考え方は、自分の住む町やその周辺の地域でも共通している部分がありませんか。自分の身の回りにも目を向け、これから先の持続可能な世界を作っていくためのヒントを探してみましょう。



【1】 自分の住む地域の施設や活動を思い返して、今回の岩手への旅行で知った持続可能な社会を築くための取り組みや考え方、向き合い方と共通する部分を探してみましょう。

▼地域の施設や活動

▼共通しているところと、そう思った理由

【2】 【1】で書いたことには、どのような課題があるのでしょうか。実際に知っていることや、旅行での学びから連想したものを書きましょう。

【3】 自分たちが今からよりよい世界を作っていくために、《自分が個人でできること》と《自分の住む地域で、人と協力するとできること》の二つの視点で考え、それぞれ発表しましょう。

▼自分が個人でできること

▼自分の住む地域で、人と協力するとできること

❖ テーマ

.....

❖ 旅行中に特に興味があったこと、おもしろかったこと



.....

❖ 旅行前の印象から変化したこと



.....

❖ 自分の住む地域で、これからの自分ができること

● 事後学習でまとめた内容を、レポートにしましょう。撮影した写真やパンフレットを貼りつけて、自分が感じた「輝き」を他の人に共感してもらえよう、工夫して伝えましょう。



盛岡広域エリア 探究学習ノート



2023年12月発行

発行元：盛岡広域振興局

問合せ：〒020-00 岩手県盛岡市内丸11-1

TEL. 019-629-6512 / FAX. 019-629-6529

Email. BA0001@pref.iwate.jp

監修：木村 諭史（領域横断型探究学習コーディネーター）

制作協力：株式会社トモノカイ

・本書の全部または一部を無断で複写・複製することは、著作権法に基づき禁じられています。
・本書の解説書・指導書・ワークブック並びにこれに類するものの無断発行を禁じます。

©2023 Iwate Prefectural Government All Rights Reserved.